

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171400118		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみたけ		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町井尻65番地の1		
自己評価作成日	平成22年2月3日	評価結果市町村受理日	平成22年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171400118&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、自然豊かな山や田畑の中で、併設される特別養護老人ホーム、養護老人ホームと共に建立している。木造平屋建ての木調を生かした落ち着いた雰囲気の内装である。地域のボランティアも定着しており、馴染みの顔となっている。利用者同士も、よく声を掛け合い普段の生活に張り合いがみられる。多種多様な福祉、医療サービスの支援を母体法人からうけることができ、豊かな行事参加が気分転換や体験になっている。防災体制も整い、ハード面、ソフト面共に安心して暮らせることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は「利用者の立場に立った保健福祉サービス」「地域に対する専門技術の提供」を理念とし、障害のある人も楽しく生活出来る地域社会を創るには地域がどうあるべきかを常に考えて運営してきたホームである。総合福祉事業の一翼を担うホームは開設10年目を迎え、相手の立場に立ち、思いやりの心を持ち、個人の思いを大切にケアを目標に、特に入浴介助時間は利用者の思いを受け止める貴重なコミュニケーションの場になっている。手作り弁当の日は気の合った者同士がホーム内の好きな所で食べるなど、気分転換の工夫があったり、また、排泄介助では「臭わない、気づかれないケア」をモットーに利用者の尊厳や羞恥心に配慮した姿勢で全職員が真剣に取り組み、実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を基に運営している。事業所独自の本年度の目標は「相手の立場に立ち、思いやりの心を持つ」とし、ホーム内の目標は「個人個人の思いを大切に」として、事業所の目標と共にかかげている。支援内容について、申し送り時、カンファレンスなどで理念や目標に添った考え方で実践を行うように確認されている。	管理者と職員は月曜日の朝のミーティング時に理念や目標を唱和し、グループホームとしてのサービスのあり方を意識付けし、全職員が共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加、散歩や公共施設への外出、買い物などの機会を積極的にこなしている。定期的に折り紙、床屋のボランティアが訪問され、茶話会の機会を持ち、交流を図っている。	折り紙ボランティアとの交流は深く、利用者が折った折鶴を地域の観光の目玉である行事に使用する等、地域に溶け込んだ付き合いが行われている。	地域の折り紙教室への誘いがあるが、認知症への理解が得られるか探りながら検討しているところであり、実現が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に交流するボランティアや地域の方と関係を構築するなかで、認知症の利用者の様子から、関わり方や特徴を理解していただくように職員がつとめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方に、利用者の様子を話したり、実際に見ていただいたりしている。その中で意見を伺ったり、地域の情報を参考にしている。	地域住民、行政、家族等の参加を得て、2ヶ月に1回、平日に開催し、ホームの現状報告や地域の情報、行政からの説明等を行っている。利用者が、併設施設の喫茶店で生き活きと働いている様子を見てもらう事もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	御嵩町在宅支援センターは、併設の事業所内にあり、日頃から当ホームのサービスの取り組みを会議などで報告している。御嵩町包括支援センターは役場にあり、施設職員の出向により情報の共有を行えるようになっている。	ホームが地域の避難所になっている。行政との連携は密に取っており、ホームで行われる防災訓練や夏祭りにも町担当者の参加がある。利用者の暮らしぶりや事業所の実情を伝え、協力関係を図っていけるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人には「身体拘束マニュアル」があり、研修等に参加し、職員に周知している。玄関やテラス等の施錠は夜勤等安全が確保できないとき以外は、常に自由に出入りできるように開放している。	事業所の運営方針に「原則として身体拘束その他利用者の行動を制限しない」と明記され、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。各種研修会に於いても、拘束をしてはいけない事を学習し、全職員が周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の各研修や勉強会、居宅介護支援事業等主催の研修会に参加し、職員に周知している。		

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、岐阜県が主催する介護支援専門員研修、認知症介護実践リーダー研修への参加。職員は、法人内の各研修に参加している。現在、成年後見人制度活用の利用者が1名みえ、関係各所と連絡をとり、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	[契約書、重要事項説明書]の取り交わしについては、事前面接、さらに入所時にも十分な説明を行っている。家族会、ケアプラン説明時にも、説明を行っている。利用者、家族には、考慮していただいたうえで理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明記。家族からの意見、苦情については苦情受付簿で職員、上司に報告、対応している。職員間については、申し送りノートへの記載、業務日誌、個別ケース記録に記載し、必要に応じては職員会議で検討している。	家族には「近況報告書」で利用者の様子を知らせており、その内容を読んで家族からの要望が出される等、家族や利用者は職員と気楽に話し合える環境が構築され、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を行い、職員からの意見をホームの運営に活かしている。普段から職員の提案を受け入れ、管理者独断による決定事項は避けるようにしている。	月1回の職員会議を行い、申し送りノートに記載された職員からの提案を検討している。会議の進行や記録も職員が交代で行っている。食事形態の異なる利用者のリスク管理と食への支援について管理者と職員は話し合いを重ねている。	会議で出された課題について、管理者と職員は忌憚のない意見を出し合い、改善策を導き出されたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリア長、管理者は職員の個人目標を把握し、常に職員の努力、実績、勤務状況の確認に努め、個々の健康、環境にも目を向けた上で、向上心、勤労を奨励している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、修得段階に応じてコースを設定している。法人外研修、エリア内学習会などの受講も奨励している。研修などの取り組みには、勤務表の調整を行い参加を可能にするよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人にはグループホームが6箇所、関連法人が運営するグループホームが1箇所あり、2ヶ月に1回のサービス向上委員会を開催、サービス提供等の情報交換や学習会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者には、担当ケアマネージャーからの情報を基に直接本人、家族から情報収集に努めている。前サービス事業者からの情報提供もいただき、安心、安全確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人からの情報の確認や、家族にしかわからない状況等を機会あるごとに何うように努めている。得られた情報を支援内容にいかしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の立場に立ち、近況の把握と傾聴によりニーズを見極め、話し合う機会を持つようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の情報を把握し、状況観察、現状の把握を心掛ける。生活場面でできることを維持・向上し、できないことをさりげなく援助するように心掛ける。日常的な活動を行う中で、利用者が自身の役割を持つこと、やりがいの発見ができる様に生活支援を行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス提供が一方向的にならないよう、外出、外泊、面会の制限を作らず、緊急時以外の受診対応、家族会、行事参加の案内、近況報告書の利用にて、利用者と家族が希薄な関係にならないように連絡調整を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院を利用したり、併設のデイサービスを利用する知人と交流、散歩時に地元の方との立ち話など、機会あるごとに交流が継続できるようにしている。	米、野菜、酒等の食材は利用者達の馴染みの地元の商店を利用し、配達時には世間話が弾んでいる。正月等には帰省し、家族の一員としてのつながりを保てるよう家族にも働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の配慮は基より、体調不良者への心遣いや散歩時、お互いに手をつなごうとされる様子、心安い方同士がしんみりと向き合っている様子を見守りながら、より良い関係づくりに努めている。利用者が自主的に支えあう光景が良く見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の先方との連絡調整、情報提供を行う。必要に応じては、退所先への面会、交流を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常では、利用者の個々の意向を反映できるように支援内容を考慮している。家族の意向は、面会時、ケアプラン検討時等に伺うなどしている。見出した情報はフェイスシートなどを利用し、職員が共有できる様にしている。	「家へ電話したい」「買い物に行きたい」等、利用者の思いや希望は、後回しにせず、その日のうちに対応している。入浴介助時を利用者の思いを受け止める場としており、介助の必要のない利用者にも必ず付き添い、背中を流しながら、日頃の不満や耐えていることを吐き出してもらう事になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、友人からの情報の把握に努めている。得られた情報はフェイスシートなどを利用し、職員が共有できる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の観察により、利用者の現状を把握し、気付いたことは記録に残す。申し送り、会議の議題等へ上げ、職員間で統一した支援ができる様に心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて専門職の意見収集を行い、チーム間ケアカンファレンスの実施、普段の利用者の声、家族の意見をもとに個人のニーズに添った援助計画を作成している。	利用者の眩みや様子等、一人ひとりの情報は、落とすことなく記録に残し、家族の意向や職員の気づきと併せ、個別の介護計画に反映し、状態の変化に応じて見直している。	日々、適切な記録がなされているが、さらに、全職員が記録を有効活用できるように整理・管理されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケアプランに添った記録を残し、モニタリング評価表にて、実践されたことについて検討し、次回の支援計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の福祉施設内の機能を活かし、行事参加、設備の共有がいつでも可能である。利用者同士も行き来している。		

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定着したボランティアとの交流、地元の友人の訪問、幼稚園との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力により、希望時は外来受診を行っている。事情により外来受診ができない場合は、職員の同行や併設の施設内の往診を利用し、十分な連携体制をとっている。	看護師として働いていた病院には「恩があるから」との思いに添い、家族同行による受診を継続している利用者も居る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師との連携を図り、対応を行っている。受診、往診時には、状況をサマリーにして報告したり、実際に立会いし指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の担当ソーシャルワーカー、主治医、看護師と連携をとっている。度々面会を行い状況を把握するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族の意思確認に努め、主治医、施設長、生活相談員を交えて、今後の対応方向性について相談をおこなっている。	併設の特別養護老人ホーム等への受入れ体制が整っていることを家族や利用者にはサービス開始時から周知している。入院等により日常生活動作が低下してきた時点で話し合い、利用者、家族、医師、職員は統一した方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署主催の救命救急講習に参加、AED講習を受けている。消防訓練は年2回、緊急通報訓練は毎月実施されている。利用者の急変、事故発生時の対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。毎月、緊急連絡網を実施し、緊急時の対応に対する意識を高めている。	夜間の想定や予行なしの緊急通報訓練、消防署の協力による消火・避難訓練・救命救急講習・AED講習等、全職員は利用者の安全確保に向け、真剣に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人「個人情報管理規程」に沿った説明を実施、同意の場合、家族から同意書に署名、捺印を頂いている。日常的には、利用者の尊厳や羞恥心、個人情報の管理について十分配慮し、実践している。	法人の研修会で学習を重ねると共に、排泄介助で、誘導への言葉掛け、臭いを無くす事、汚した物の交換を誰にも解らないようにする事等、申し送りの中で報告し合い、気づかれない支援について一人ひとりの職員が徹底的に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個別支援、残存機能の維持、発見に努め、自己決定できる機会を見出すことができるよう関わりを持っている。出来る限り本人の希望に添うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の様子を常に観察する中から、行動の裏づけを理解するように努め、個々の生活のペースを確立できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は本人が準備し、入浴、更衣される。できない方は、職員が付き添い一緒に行く。化粧品、身だしなみに必要な品は、在宅からの馴染みの物や家族からの差し入れで備えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の栄養士が栄養管理を行い、献立を提供、地元の業者により食材配給を行っている。利用者の希望、提案を生かし季節に応じた献立を実施するときがある。食事に関連した活動に利用者が常に参加できるように声かけ、関わっている。	食材は、馴染みの地元の業者が配達し、会話をしながら利用者の手で受け取っている。食事の準備や後片付けなど、手伝い当番表に基づくさり気ない呼びかけにより、利用者一人ひとりが気兼ねなく力を発揮出来るように、職員の工夫と努力で改善された。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認、食事、おやつ時の水分確保、体重管理を行っている。完食される方、少食の方と個々に差があるが、個人の状況に応じた見守りを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じて口腔ケアを行っている。自立のため、自己管理できる方も、確認を行っている。		

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを尊重し、介助の必要な方は、羞恥心に配慮しながらその都度対応している。活動の前後にトイレを利用していただくよう声かけし、排泄の失敗を防ぐ機会も作っている。本人が安心して過ごせるよう、気持ちよく過ごせるような状況を検討し、家族と相談を行っている。	自宅では紙パンツを着用していた利用者が、入居後、職員の見守りや言葉掛け等により、自然にきっかけを掴み、布パンツに替わり、トイレで気持ちよく排泄が出来るようになり、コストダウンにもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔には個人差があり、本人の様子、健康状態を把握、観察を行っている。食事、運動など、本人の状況に合わせて、毎日働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に応じて、毎日か一日おきの夕方から夜間に入浴を行っている。自然な動きを促し自己にて入浴できるように見守りを行っている。個々のペースに併せてゆっくり、ゆったり入浴されるように配慮している。日頃からスキンケアを心掛けている。	全体的に風呂好きの利用者が多く、入浴拒否をする利用者はいない。入浴時間は利用者が介助する職員との心のふれあいを楽しみ、集団生活でのストレスの発散場所にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は家族の協力により持参していただいた写真や物品があり、安心して過ごされる空間である。他者とはなれて一人静かに過ごされている時もあり、休みたい時に休まれている。職員は様子を見守り援助していくように心掛けている。夜間はなじみの寝具で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理簿を個々に作成し確認できるようにしている。往診受診時、看護記録に状況を記載し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体能力に応じて、生活歴や好みを理解し日々の中で役割作りをしている。ゆっくり穏やかに過ごされる普段の生活を大切にしながらも、季節に応じた体験型の行事を行っている。当日までの準備を楽しみにしながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の神社までの散歩は日課になっている。天気や体調に配慮しながら、ホーム外に出かけて他者との交流ができるように努めている。家族の協力で外出を行うことができている。	自然環境に恵まれ、散歩は毎日の日課となっている。家族と一緒に外食等に出掛けることを楽しみにしている利用者も居る。また、利用者一人ひとりの「行きたい」思いを大切に受け止め、希望に応じ、1対1での外出支援もしている。	

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金額を個人別に家族から預かり、希望に応じて美容院や買い物時に使うことができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは、その都度対応している。家族、友人と手紙の交流を行っている。いつも来ていただいているボランティアと季節の手紙の投函をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の念仏に使った仏花を居間や居室に供えたり、季節の花、観葉植物を飾っている。手作りのカバーは個々に違っても自信作である。朝日、午後からの日差しを感じながら、時間によって過ごされる場所が異なっている。そこに椅子を置き、一人で、気の合った人同士が過ごされている。季節や日付がわかるように工夫している。	適所にソファや椅子が設置されており、食事が済むと、居心地の良い場所に移動し、外を眺めたり、語り合ったりしている。リビングからそのまま出て行ける中庭が洗濯物干し場になっており、利用者同士が楽しみながら干したり、片付けたりする事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には一日の時間が日差しや明るさによって感じられ、所々に椅子を設置している。心安い人同士で話し込んだり、1人で新聞を読んだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には家族から提供された物品や写真、家具が設置されている。面会時には個室で過ごされるので本人や家族の意向で部屋作りが行われている。	フローリングの部屋、畳みの部屋があり、大切な物、馴染みの家具等が工夫して配置され、温もりや生活感に溢れ、面会時には家族と共にのんびりと過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー、廊下には手すりが設置されている。東西南北に設備が明確に設置されているため認識しやすい。思い思いの場所に自然に動くことができる。		